


学生ボランティア活動に 関する調査報告書



平成18年3月



JASSO

独立行政法人

日本学生支援機構

Japan Student Services Organization

はじめに

独立行政法人日本学生支援機構は、平成16年4月、奨学金貸与事業、留学生支援事業、学生生活支援事業を通じて、次代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な優れた人材を育成するとともに、国際理解・交流の推進を図ることを目的として発足いたしました。

創設2年目を迎え、大学等の学生支援業務をリード・サポートする中核機関として、社会のグローバル化や多様化にきめ細かく対応し、日本人学生と外国人留学生の双方に対する総合的な支援事業を実施しております。

学生ボランティア活動については、平成7年の阪神・淡路大震災を契機として社会の注目を集め、各大学等においても、正課教育への取組みや学生ボランティアセンターの設置など、様々な支援を行っています。

また、平成14年7月には、中央教育審議会から「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」の答申があり、今日の青少年をめぐる様々な問題を解く糸口として「奉仕活動・体験活動」を奨励・支援することの重要性が説かれ、大学等を含め、社会全体で活動を推進していくための仕組みや社会的機運の醸成の必要性が提言されています。

こうした状況の中にあって、日本学生支援機構は、平成17年度、学生のボランティア活動に関する意識と実態を把握し、今後の学生ボランティア活動支援・促進の方策を検討するための資料を得ることを目的として、全国の国公私立大学生を対象に「学生ボランティア活動に関する調査」を実施いたしました。

本報告書が、大学等及び地域社会における学生ボランティア活動を支援・促進するための企画・立案の参考資料となれば幸いに存じます。

末筆ながら、本調査を実施するにあたって、ご多忙の折にもかかわらずご協力をいただきました大学関係者の皆様をはじめ、本調査の実施に際してご助言ご協力をいただきました関係者の方々に対し、心からお礼を申し上げます。

平成18年3月

独立行政法人 日本学生支援機構

目次

はじめに

調査実施の概要	1
○ 回答者の内訳 (属性)	2
調査結果の概要	3

調査の結果

I. ボランティア活動体験と活動分野

1. ボランティア活動体験	6
2. ボランティア活動の分野	8

II. 実際のボランティア活動の内容と満足度

1. ボランティア活動のきっかけ	9
2. ボランティア活動の形態・方法、ボランティア団体の規模や会費	10
3. ボランティア活動と大学の専攻や将来の進路	13
4. ボランティア活動での満足度	14

III. ボランティア活動への参加と環境

1. ボランティア活動の動機	17
2. ボランティア活動の情報源	20
3. ボランティア活動と学業の両立や障害要因	21
4. アルバイトとボランティア活動	23
5. 学生のボランティア活動への評価	25
6. 就職活動とボランティア活動	25
7. ボランティア活動に対する実費や謝礼の是非	26

IV. ボランティア活動と行政や大学

1. ボランティア活動の今後の社会的役割と行政の関与の仕方	27
2. ボランティア活動と大学	29
3. ボランティア活動を通じての留学生の手助けや交流	32
4. ボランティア活動における学生の特色・長所を生かす方法	34
5. 日本学生支援機構のボランティア活動支援への役割	35

自由回答	38
------	----

調査票	50
-----	----

集計結果	62
------	----

おわりに

調査実施の概要

1. 調査の趣旨・目的

大学等においては、ボランティア教育の充実や学生のボランティア活動の奨励・普及が、ますます重要な課題となってきた。このため、学生のボランティア活動に関する意識と実態を把握することが必要不可欠となっている。

前回の調査（平成9年度に旧（財）内外学生センターが行なった同調査）から7年を経過し、学生ボランティアに対する社会情勢・活動環境・意識等も変化しているため、経年調査を行なうことにより、現在の学生のボランティア活動に関する意識と実態を把握するとともに、調査の結果は、学生ボランティア活動に関する支援・促進の方策についての具体的な検討を行う上での貴重なデータとなり得る。

本調査の結果は、今後の大学等及び地域社会における学生ボランティア活動の支援の充実のために、広く周知する。

2. 調査の対象

- (1) 母集団 全国 211 大学学部 2・3 年在学生
(国立 43 大学、公立 9 大学、私立 159 大学)
- (2) 抽出件数 5, 000 件
- (3) 抽出方法 収容定員 2, 000 人以上の大学を、北から南まで都道府県毎に国公立大学順に配列し、3 校に 2 校の割合で調査対象大学を抽出した。

3. 調査の時期 平成 17 年 11 月

4. 調査の方法 各大学の学生課等を窓口として、調査票を学生に配布し、回答票を回収した。

5. 回収の結果 有効回収件数（率） 4, 036 件（80. 7%） 回答学校数（率） 202 大学（95. 7%）

6. 調査の内容等

この調査は、平成9年度に、旧（財）内外学生センターが行った「学生のボランティア活動に関する調査」の経年調査として、本年度、日本学生支援機構が実施した。

7. 調査の組織

調査は、日本学生支援機構内に『「学生ボランティア活動に関する調査」のための企画実行委員会』を設置し、下記の委員より、調査の内容・方法の企画、調査結果の分析等について、ご指導・ご助言、ご協力をいただいた。

《「学生ボランティア活動に関する調査」企画実行委員会委員》

興梠 寛	（社福）世田谷ボランティア協会 理事長
栗田 充治	亜細亜大学国際関係学部 教授
平野 吉直	信州大学教育学部 教授
小抜 隆	東北福祉大学ボランティアセンター コーディネーター

調査回答者の内訳(属性)

調査数: 4,036(100%)

FQ1. 性別

	回答数	割合(%)
男	2,266	56.1
女	1,755	43.5
無回答	15	0.4

FQ2. 年次

	回答数	割合(%)
2年生	1,852	45.9
3年生	2,092	51.8
無回答	92	2.3

FQ3. 大学種別

	回答数	割合(%)
国立	933	23.1
公立	126	3.1
私立	2,947	73
無回答	30	0.7

FQ4. 専攻分野

	回答数	割合(%)
人文科学系	717	17.8
社会科学系	786	19.5
社会福祉学系	185	4.6
理学系	204	5.1
工学系	749	18.6
農学系	121	3
医・歯・薬学系	185	4.6
商船学系	77	1.9
家政学系	51	1.3
教育学系	221	5.5
芸術学系	91	2.3
その他	624	15.5
無回答	25	0.6

FQ5. 住居形態

	回答数	割合(%)
自宅	1,941	48.1
学生会館(寮)	293	7.3
借家(アパート・マンションなど)	1,752	43.4
その他	35	0.9
無回答	15	0.4

FQ6. 大学のサークル活動経験

	回答数	割合(%)
積極的に活動している(したことがある)	2336	57.9
積極的ではないが、活動している(したことがある)	957	23.7
まったく、活動したことがない	728	18
無回答	15	0.4

I. ボランティア活動体験と活動分野

1. ボランティア活動体験

- 65%の学生が、ボランティアの経験が「ある」と回答
- 男性より女性の方が、ボランティア経験が「ある」と回答
- 社会福祉学系学部、教育学部にボランティア経験者が多い

2. ボランティア活動の分野

- 「子供たちにスポーツ、レクリエーションなどの指導をする」、「自然や環境を守る」、「お年寄りや障害のある人などを助ける」が上位を占める

II. 実際のボランティア活動の内容と満足度

1. ボランティア活動のきっかけ

- 半数以上の学生が「自発的な意志で」ボランティア活動をはじめている

2. ボランティア活動の形態・方法、ボランティア団体の規模や会費

- 現在行っているボランティア活動の形態・方法は「大学内のボランティアグループの活動として」が約35%で最も高い
- 平成9年度調査との比較では、大学及び大学内グループをきっかけにしたボランティア活動への参画が増加
- 7割強の学生は50人未満のボランティア団体に参加
- 半数の学生は「会費・分担金などの負担はない」ボランティア団体に参加している
- ボランティア団体に参加しているおよそ7割の学生が月平均2,000円未満の負担額と回答

3. ボランティア活動と大学の専攻や将来の進路

- 半数の学生が大学の専攻とボランティア活動との関連が「ない」と回答
- 平成9年度調査との比較では、大学での学習内容と結びつけるボランティア活動メニューが増加
- およそ8割の学生が、ボランティア活動は「進路への影響はある」と回答
- 平成9年度調査との比較では、今後の進路への影響について「大いにある」が8.5ポイント上昇

4. ボランティア活動での満足度

- 65%の学生が「満足している」と回答
- 平成9年度調査との比較では、「満足している」が8.0ポイント上昇
- 満足の理由として「楽しかった」、「ものの見方、考え方が広がった」、「友人や知人を得ることができた」が上位を占める
- 不満足の半数の学生が「自分の思うとおりの活動ができなかったから」と回答

Ⅲ. ボランティア活動への参加と環境

1. ボランティア活動の動機

- ボランティア活動の動機は、「困っている人の手助けがしたいから」、「新しい人と出会いたいから」、「地域や社会をよりよくしたいから」、「新しく感動できる体験がしたいから」、が上位を占める
- ボランティア活動の動機の双方向性（動機の4類型）

2. ボランティア活動の情報源

- ボランティア活動の情報源は「友人から聞く」、「インターネット・携帯電話などの情報網を使う」、「地域の回覧板や掲示板を読む」が上位を占める
- 平成9年度調査との比較では、活動開始時の情報源はマスメディア系からインターネット・携帯電話などに変化

3. ボランティア活動と学業の両立や障害要因

- 半数の学生は、ボランティア活動と学業が両立すると回答
- 平成9年度調査との比較では、学業と両立すると感じている学生が増加
- ボランティア活動開始時の障害として「大学の時間が忙しい」、「活動に要する技術や知識を持っていない」、「アルバイトが忙しい」が上位を占める
- 半数の学生が休日、休暇を利用したボランティア活動
- 平成9年度調査との比較では、「学校の長期休暇」が8.4ポイント減少し、「学校の休日」と「学校の教育活動の時間中」が5ポイント以上上昇

4. アルバイトとボランティア活動

- アルバイトの経験がある学生は全体の92%
- ボランティア活動よりもアルバイトを優先させる75%
- 平成9年度調査との比較では、ボランティア活動優先の学生が増加

5. 学生のボランティア活動への評価

- 大学のボランティア活動は評価すべき55%

6. 就職活動とボランティア活動

- 就職の面接でボランティア活動の経験を聞かれることを知っている学生は半数
- 平成9年度調査との比較では、「知っている」が5.5ポイント上昇
- 企業がボランティア活動を採用の参考にすることに賛成44%
- 平成9年度調査との比較では、「賛成」が15.7ポイント上昇

7. ボランティア活動に対する実費や謝礼の是非

- 報酬は受け取るべきではないが、経費はよいとした学生58%

IV. ボランティア活動と行政や大学

1. ボランティア活動の今後の社会的役割と行政の関与の仕方
 - 今後ボランティアの役割は大きくなるとした学生は74%
 - 国や市町村のボランティア活動支援についての要望では「情報・知識の提供」、「技術や知識等の研修会」、が上位を占める
2. ボランティア活動と大学
 - 公共支援と同じく「情報・知識の提供」、「技術や知識等の研修会」、が上位を占める
 - 半数の学生が、大学がボランティア活動奨励策をとったほうがいいと回答
 - ボランティア活動も大学の授業の一環に
3. ボランティア活動を通じての留学生の手助けや交流
 - 留学生への手助けや交流をすべきとした学生52%
 - 留学生への手助けや交流例として「日本の文化や生活習慣等を教える」、「交流パーティの開催などコミュニケーションをはかる」、「日本語を教える」が上位を占める
4. ボランティア活動における学生の特色・長所を生かす方法
 - 「知識や趣味を生かす」、「大学で学んでいる専門・専攻を生かす」が上位を占める
 - 平成9年度調査との比較では、「大学で学んでいる専門・専攻を生かす」が9.7ポイント上昇
5. 日本学生支援機構等によるボランティア活動支援への役割
 - 日本学生支援機構等にボランティア活動支援を期待する学生は74%
 - 望まれているボランティア活動支援の方法は情報や、技術知識などの伝達
 - 日本学生支援機構のボランティア活動希望者への技術や知識などの研修会への参加意向は58%
 - 日本学生支援機構作成のガイドブックの利用意向は68%